中世の遺跡経塚

武藤正典

経塚の営造

仏教では、釈迦入滅後の世界を正法、像法、末法の三時の変遷に分け、はじめの正法は釈迦入滅の紀元前九四六年（北伝）とし、それから一千年、この時期は仏教は盛期で、それから一千年が像法でこの時期になると仏教は衰え、さらに一万年が末法で天変地変が起り、疾病流行、戦乱等で、道徳は地に落ち、政治は乱れ、社会全体が真黒な不安のどん底で人々の心はすさみ、やがて仏教は遂に滅びてしまう、これが仏教の末法思想で、平安時代の人々は、この正像末の三時思想を深く信じ、末法の世に生れた身の不幸を嘆き、不安な現世に悩み、源信（恵心）の説く「厭離穢土欣求浄土」の一途に、専ら来世に救いを求め、末法到来の幻影におびえていた。

「扶桑略記」には、当時の参議藤原資房（すけふさ）が永承七年（一〇五二）大和長谷寺が焼失したことを聞き知り、「今年始めて末法に入る」と記し、当時の人々が保元の乱（一一五六）、平治の乱（一一五九）で堂塔の退転を眼前で知り、この「末法思想」の信仰から経巻等を土中に埋めた。この末法到来思想が「経塚」の築造として現われたものである。末法に経典の消失を恐れ、経典の永久保存として経典を土中に埋納し、第二の釈迦の弥勒信仰の釈迦入滅後五十六億七千万年を経て、当来の世において弥勒菩薩が卵卒天（そつてん）より閻浮提（えんぶだい）に下生して成仏し竜樹（りゅじゅ）下の三会（さんね）の説法で衆生を済度するとき、再びこの世に生れその折、埋納した経典が湧出するという信仰によって営まれたのが「経塚」で、平安時代末期（一〇〇七―一一八五）が最盛期で江戸時代次第に地方に流布された、信仰的には、弥勒信仰のほか阿弥陀浄土信仰し混存している。

経塚の規模

経塚は、一見理解しがたい遺跡で寺社の境内、または裏山、隣接地の高台にあまり顕著でない鉢を伏せたような土饅頭のような盛土を施し、内部は石室のような施設を設け、敷石を敷きその上に、経巻を入れる経筒を納める。経筒は経巻を安置する容器で、普通銅製鋳物で（円筒形、六角形、八角形）で金泥絵の花文等を附し、なかには銘文が刻まれたものもある。経筒には陶磁器、鋳鉄を用いたものもある。また経筒と共に和鏡、刀子、貨幣、懸仏（かけほとけ）、仏像（金銅仏）を供えて収める、経塚は法華三味の罪業消滅を祈るため、経巻は妙法経（法華経）が中心でなかには無量寿経、阿弥陀経、弥勒経、般若心経等がある。初めは紙本の経巻を埋納したが紙本は腐朽するため経巻の代り瓦に経文を刻んだ経瓦、自然石に経文を書いた一字一石の経石をカメツボに入れて収め、また銅板に経文を刻んだものを納入した。経塚の盛り土の上に標識として石造の塔、碑を立てたが、こうしたことから「経塚」を法身舎利塔と解釈し、一個の寺院と見る学者もいる。経塚は天台宗寺院に多く、真言系に少ないのが特色である。

経塚は単一の場合も多いが、ときには群をなし営まれている複合もあって、この代表的なのが藤原道長が末法の世を嘆き、寛弘四年（一〇〇七）大和吉野山の奥、金峰

名所	時代	所在地	備考
黒谷観音経塚	平安	大野市下黒谷仏性寺	大正八年九月二日大風で杉の巨木が倒れ、出土、金銅製経筒、（保元二年経）和鏡、刀子、出土（東博保管）
北御門経塚	江戸	大野市北御門	自然破壊経沓出土、（真柄文書にあり）
温見経塚	不明	西谷村温美見	過去にほとんど自然破壊、未調査
経ケ獄経塚群	鎌倉	勝山市平泉寺町	未調査
岩ケ野経塚	不明	勝山市平泉寺町経ケ塚	昭和三六年発見、一字一石経、直経三センチ、
豊原寺経塚	室町	丸岡町豊原谷上山	過去に破壊、経石出土
作田経塚	室町	丸岡町作田	昭和七年発見金銅製経経筒高さ十四チセン、径十一チセン、刀子、円
清滝経塚	平安	金津町清滝尼寺	外側に「河内国北西条布忍僧有賢為法田安元二年（一一七六）未」銘文（金津町志田方）
高尾経塚	室町	福井市高尾	現存、未調査
法承院境内経塚	室町	福井市飯塚町	宝筐印中に一字一石経あり
笏谷山経塚	不明	福井市小山谷	過去に破壊され遺物不明
朝倉山経塚	室町	福井市浜別町	戦時中発見、地下二十チセンから経筒、経巻、和鏡、刀子、出土（福井市砂子坂町西徳寺）
経塚山経塚	不明	清水町経塚山	過去に破壊され不明
塚の越経塚	不明	清水町風巻	大正九年瓦焼土取りで破壊
越知山経塚	室町	朝日町越知山々頂	明治初年発見、経瓦幅八チセン、長さ十四チセン、経瓦に「応永十一

名所	時代	所在地	備考
経ケ塚古墳経塚	不明	朝日町朝日	年九月祐盛」銘文有（芦原町轟木浄光寺）
蔦野経塚	不明	朝日町蔦野	福通寺裏山、未調査、一部破壊
白出経塚	不明	織田町上戸	過去に破壊、経石出土
経ケ嶽経塚	不明	鯖江市米岡町	過去に破壊、経石は（宮崎村西応寺）
長泉寺山経塚	室町	鯖江市長泉寺	過去に破壊され不明
神明神社境内経塚	不明	鯖江市神明町	大正六年発見カメ、経石出土（鯖江市中道院）
朽飯経塚	室町	今立町朽飯八幡神社	境内に宝筐印塔経塚あり未調査
大屋経塚	不明	武生市大屋町	明治初年発見、経筒、高さ十二センチ、径四センチ「大永六年」銘文
大虫経塚	不明	武生市大虫町	有、仏、耳飾、五鈷杵出土（朽飯八幡神社）
光明山経塚	平安	武生市安養寺町	過去に破壊
金ケ崎経塚	平安	敦賀市金ケ崎	過去に破壊
深山寺経塚	平安	敦賀市深山寺経鼻	大正十一年発見、経筒、和鏡、刀子出土（安養寺区）
経塚山経塚	不明	敦賀市疋田奥野	安政五年発見経筒、和鏡、（金ケ崎宮）
金山経塚	江戸	敦賀市金山	明治初年発見経筒、鏡二面、経巻の軸木、大かめ二個（京都大学）
砂流経塚	室町	敦賀市粟野	未調査
永厳寺経塚	江戸	敦賀市泉町	現在石塔あり
天満神社経塚	不明	敦賀市公文名	高岡神社境内石塔あり、未調査
			境内に石塔あり、未調査
			神社境内に石塔あり未調査

名所	時代	所在地	備考
嶋の経塚	室町	三方町田井島	明徳年間、大和長谷寺の道厳が築く（大乗寺記）
成願寺経塚	鎌倉	三方町成願寺	未調査
経ケ鼻経塚	不明	上中町麻生野	宝筐印塔、地蔵尊、一字一石経宝筐印塔
池ノ谷山ふもと経塚	不明	上中町麻生野	宝筐印塔
岩神塚経塚	不明	上中町三田	一字一石経出土
八丁塚経塚	不明	上中町安賀野	未調査
阿弥陀堂経塚	不明	上中町仮屋	未調査
観音堂経塚	江戸	上中町提	耕雲寺境内宝筐印塔、一字一石経銘文「奉石書大乗妙典塔寛政二年三月」銘
桂林寺境内経塚	江戸	上中町兼田	境内一石一礼経典塔
盛雲寺境内経塚	江戸	上中町上野木	多宝塔銘文に「奉写大乗妙法蓮経塔」
尾内（つんば）経塚	室町	大飯町鉢崎	過去に破壊、粟石、岩敷き、宋銭出土
蘭山（やま）経塚	平安	大飯町本郷	明治二一年発見、経筒、和鏡、刀剣、懸仏、仏像出土（高浜町香山神社）

備考　一字一石経は室町時代以降江戸時代に多く作られ、これには、墨書と朱書がある。また一字一石ではなく多字一石経もある。（経塚記銘は一部、上田三平氏の原稿による）

山々頂に経巻を埋めた経塚で、御堂関日記（道長日記）に詳細に記してあるが、この経塚は江戸時代元禄年間発掘され、経筒、経巻類は国宝で東京国立博物館で管理されこれが代表的経塚で、その外、京都鞍馬寺裏山の経塚群、福岡県四天王寺跡経塚群が代表的なものである。経塚は墳丘が低く、石塔等も長い年月で移動され、本県の経塚も自然の浸蝕、激変で崩壊し、ほとんどは過去に無意識的に破壊され、偶然出土した経筒、経石等が附近の社寺に奉納され、その遺跡は今日では全く湮滅し、どのような

状態で納入されていたかは知ることはできないが、その名残りとして、経ヶ岳獄、経ヶ嶺、経ヶ鼻等の地名だけが現在も残っている、経塚遺物は多様で、経容器、経典、仏具、供養具など種類が多く、出土遺物によって経塚の特色、地域の文化程度、当時代の推移を知ることができる日本仏教史上貴重な資料である。

本県で出土した経塚の経筒（円筒形銅製）で現存する代表的なものには、坂井郡金津町清滝字尼寺地籍の丘陵で昭和七年発見された円筒形経筒は直径十一センチ長さ十四センチ平安時代後期のもので、筒の外側に「河内国、北西条布忍僧有賢為法田、　安元二年（一一七六）の銘文、金津町志田家にある。

今立郡今立町朽飯（くんぢし）、八幡神社の裏（うら）山から明治十年頃出土した経筒も円筒形で、径四、九センチ長さ十、二センチ、蓋（ふた）表は三尊種子で、筒の側面に「十羅刹女雲州大社住侶敬白奉納大乗妙典六十六部内一部、三十番神本願永乗小仏乗泉、大永六年丙戌八月吉日」

刻銘の室町時代のものがある。敦賀市深山寺字経ヶ鼻で明治の終り頃出土した経筒二個は、大は径十一、五センチ、長さ二四、二センチ、小は径八、一センチ、長さ二一、七センチで共に平安時代後期で、現物は京都大学にある。金ケ崎城跡の絹掛（きぬかけ）神社上の山林地帯から安政五年出土した経筒は径十二センチ、長さ二五センチ鎌倉時代もので金ケ崎宮にある。また、泥塔経、瓦経は越（おち）知山大谷寺山で明治七年出土し芦原町浄光寺、その外、県内で確認された経塚を一括すれば、別表のとおりである。